



ニューヴェル赤羽台全景

ニューヴェル赤羽台 東京都北区

暮らしを守り、人をつなげる。

赤羽台団地から託されたパトンは、ニューヴェル赤羽台へ

JR赤羽駅からほど近い、都心方面を望む高台に位置する赤羽台団地は、23区内では初めての千戸を超える大規模団地でした。高度経済成長期に生きる人々の憧れだった赤羽台団地も、建物の高経年化、耐震上の課題や立地上の特性を踏まえ「多世代が交流できる都心近接住宅地形成」、「地域に開かれた良好な環境のまちづくり」をテーマに、2000年から団地再生に着手しました。これまでの道路構成や緑の資産を引き継ぎ、建替えによって誕生した敷地には、子育て支援施設や高齢者支援施設の誘致、北区と連携した区立公園の整備、東洋大学の誘致等により土地の有効利用と高度利用を進め、東京の北の玄関口にふさわしいまちづくりを進めています。

多様な人々が集い・行き交い・にぎわう、赤羽台周辺地区のゲートウェイ空間の形成

2022年、まちの課題を解決しながら、より一層魅力あるまちづくりを推進することを目的として「赤羽台周辺地区のゲートウェイとして多様な人々が集い・行き交い・にぎわう都市生活拠点の形成」というコンセプトを策定。全国初の試みとして、URと北区が保有する土地の一体活用を図るため、土地譲受事業者の募集を行いました。譲渡された敷地は、地域に開かれた広場やアクセスルート(擁壁の一部撤去やエレベーター設置)、商業施設、公共駐輪場等を整備することで、ゲートウェイとしてふさわしい都市空間に生まれ変わります。

コミュニティ拠点「Hintmation」で、ゆるやかに人と人がつながる暮らし

近年、都市部では地域コミュニティの希薄化により、高齢者のみならず、若年層、子育て層等の孤立化が社会問題となっています。ニューヴェル赤羽台は、昭和30年代の建設当初からの居住者と新たな入居世帯、隣接する東洋大学の学生たち、団地内施設の利用者等、多様な世代が行き交う一方で、その交流や地域活動の機会が減少しているという課題もあります。



コミュニティ拠点Hintmation(ヒントメーション)

URは、その豊かな団地環境を生かし、多様なヒト・モノ・コトに触れる機会を日常的に創出することで団地暮らしに新たな楽しみを提供、ゆるやかに人と人がつながり支えあう関係づくりを目指し、東洋大学福祉社会デザイン学部、(株)URコミュニティ、日本総合住生活(株)とともに、持続可能なコミュニティ形成とその拠点づくりの共同研究を実施。その一環として、2024年に団地内にコミュニティ拠点「Hintmation(ヒントメーション)」をオープン。団地や地域の住民が気軽に立ち寄り、赤羽台での暮らしを楽しむヒントが得られる場所をつくりました。



URまちとくらしのミュージアム

URのまちづくりの

過去・現在・未来を体験しながら、新しい暮らし方を探求する。

パブリックスペースを使用したトライアル

都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設

2023年9月15日、東京都北区赤羽台に「URまちとくらしのミュージアム」を開館しました。このミュージアムは、旧・赤羽台団地の一画に約60年前の様相を残す保存街区を修復・整備した登録有形文化財4棟と新たな展示施設を加えた計5棟、屋外空間からなる「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設」です。新たな展示施設のミュージアム棟では、歴史的に価値の高い集合住宅4地区計6戸の復元住戸をはじめ、映像や模型展示を通して、都市や集合住宅での暮らしの歴史やまちづくりの変遷を紹介。URの取り組みを大迫力スクリーンで体感できる「URシアター」や事業地区やパンフレット等を一望できる「メディアウォール」、我が国初期の本格的な鉄筋コンクリート造の集合住宅「同潤会代官山アパート」や現代のDK(ダイニングキッチン)の代名詞である「蓮根団地」の復元展示等をご覧ください。また、スターハウス等、保存住棟4棟は、これからの暮らしの提案や、更なるストック活用に向けた改修技術等の実証フィールドとして活用します。



蓮根団地の復元住戸

団地として初めて、国の登録有形文化財となったスターハウス

2019年、スターハウス3棟、板状住棟1棟の保存住棟4棟が、団地として初となる国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。今後、建設当時の復元住戸モデルや、新しい暮らし方を提案するモデル住戸等を展開する場として、一般社団法人日本建築学会の「UR集合住宅団地・保存活用小委員会」の監修のもと、建物保存・活用のあり方について検討していきます。

赤羽駅周辺地域を巻き込んだまちづくりを実践

このミュージアムは単なる展示施設ではなく、新たな暮らし方を探求し、団地を使った地域づくりにトライアルする「まちづくりの実践場」を目指しています。ミュージアムのあるニューヴェル赤羽台、そしてJR赤羽駅西口の市街地再開発事業。いずれにおいても旧公団時代からURがまちづくりを先導してきたエリアであることから、地域全体をフィールドとして捉え、ミュージアムで様々な取り組みを行っていきます。



まちづくりの変遷をスクリーン4面で体感できるURシアター